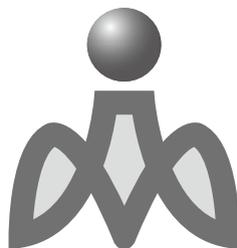


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和3年10月～12月実績〕
〔令和4年1月～3月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第3四半期 令和3年10月～12月期 「調査時点：令和3年11月15日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

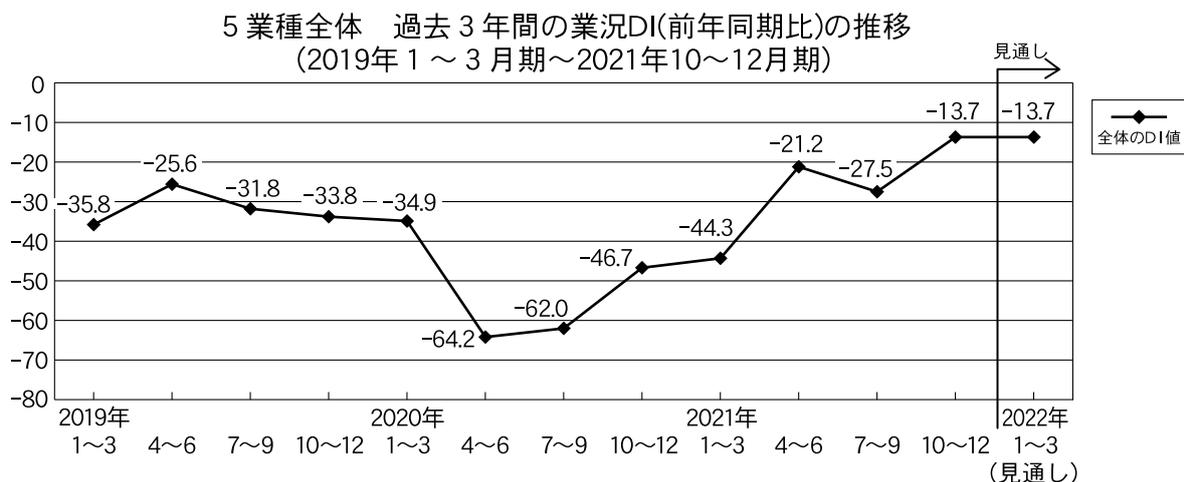
本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

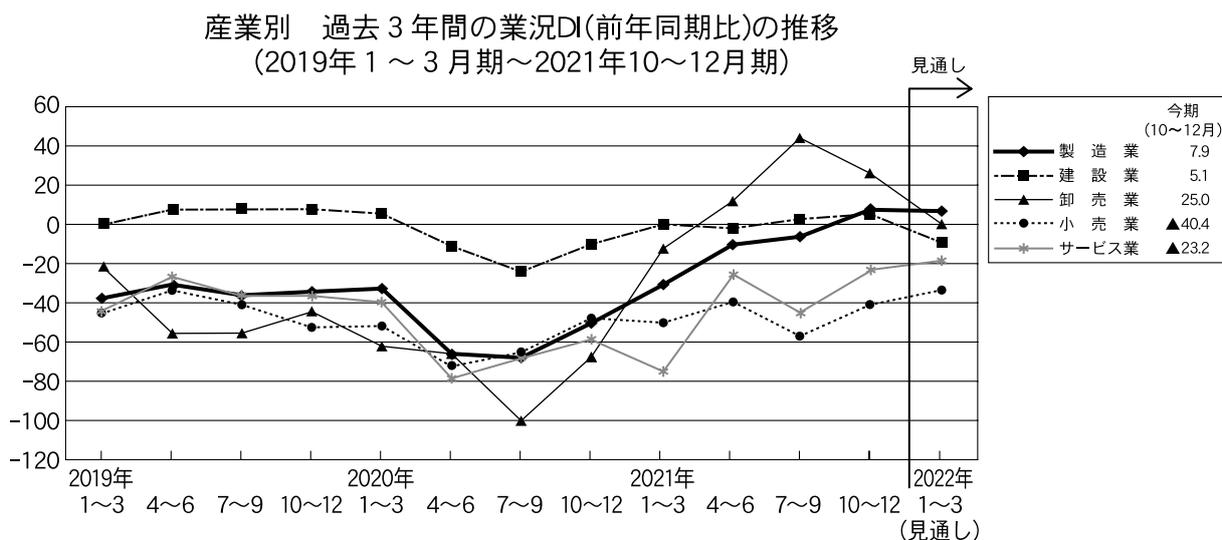
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲13.7と前期比で13.8ポイント改善している。来期についても▲13.7と今期同様の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

改善しているのは、製造業が+7.9で前期比+13.3ポイント、建設業が+5.1で前期比+2.5ポイント、小売業が▲40.4で前期比+16.0ポイント、サービス業が▲23.2で+21.1ポイント。一方悪化しているのは、卸売業のみで+25.0で前期比▲19.5ポイントであった。

来期は、小売業、サービス業が改善の見通し、製造業、建設業、卸売業が悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの119企業を含めた284サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

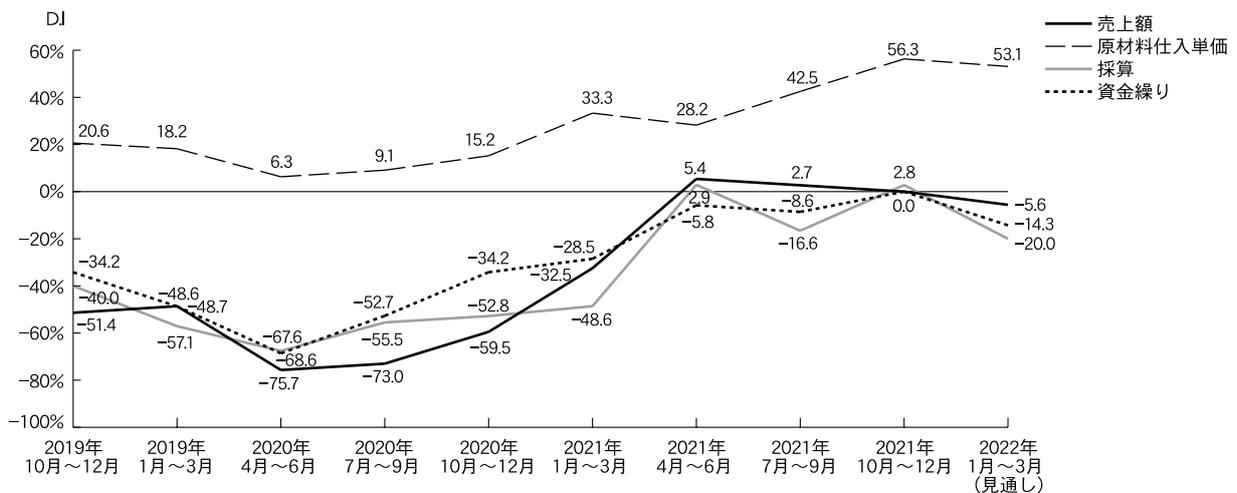
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期0.0と前期比で2.7ポイント僅かながら悪化し、来期も▲5.6へとさらに悪化の見通しとなっている。原材料仕入単価D Iは、今期56.3と前期比で13.8ポイント上昇（悪化）し、来期は53.1へと若干の改善の見通し。採算D Iは、今期2.8と前期比で19.4ポイントの改善だが、来期はまた▲20.0に悪化の見通し。資金繰りD Iも、今期0.0と前期比で8.6ポイントの改善だが、来期は▲14.3に悪化の見通しである。

今期は全ての売上額D Iと原材料仕入単価D Iが悪化し、採算D Iと資金繰りD Iが改善した。来期は原材料仕入単価D Iのみが改善の見通しで、他全てのD Iは悪化の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

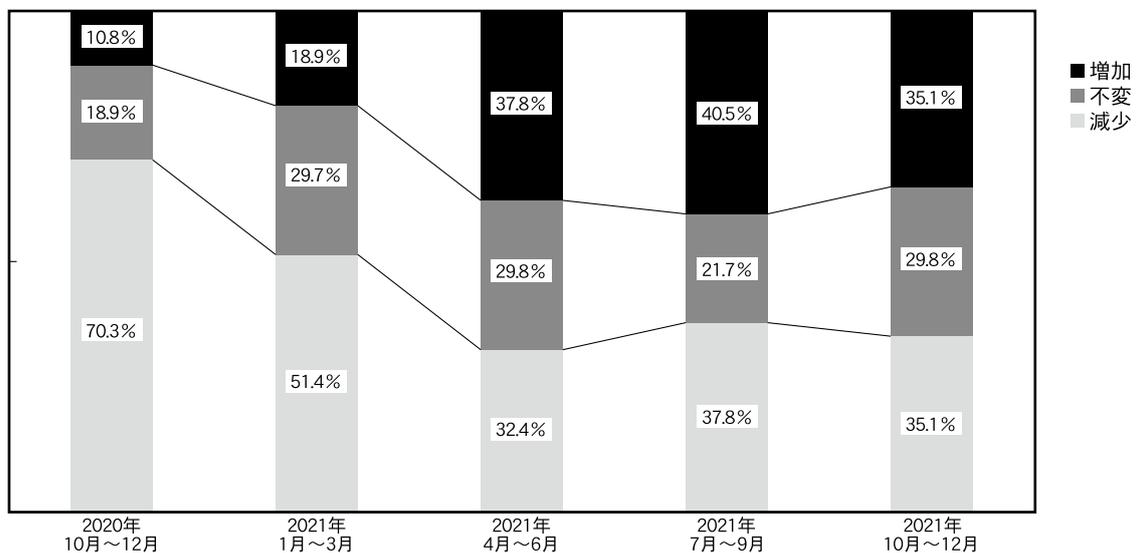
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、35.1%（13社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は29.8%（11社）と増加（前期比+3社）、

「減少」は35.1%（13社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数36社））

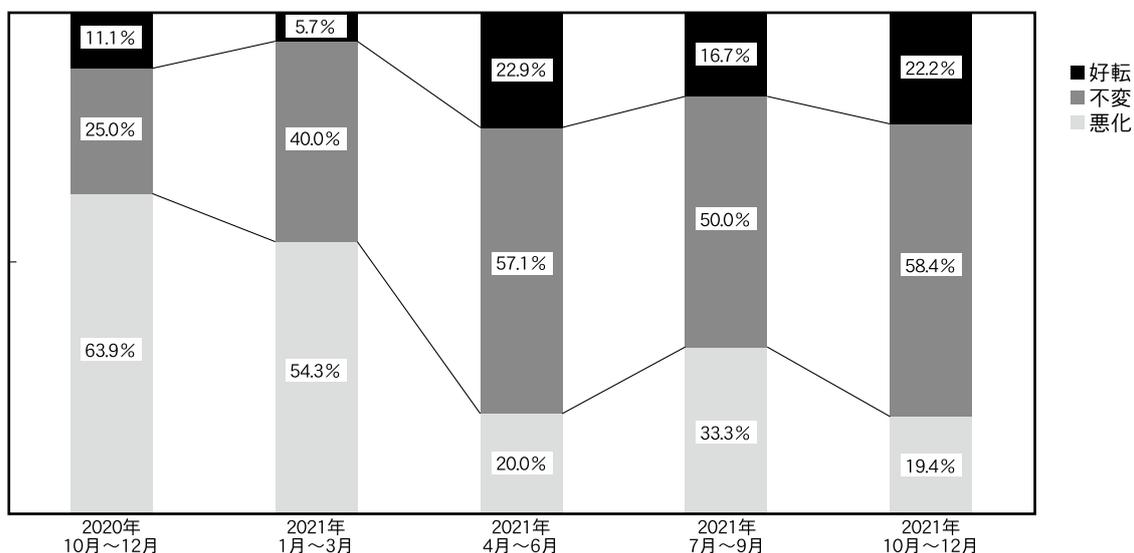
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、22.2%（8社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は58.4%（21社）と増加（前期比+3社）、

「悪化」は19.4%（7社）と減少（前期比▲5社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

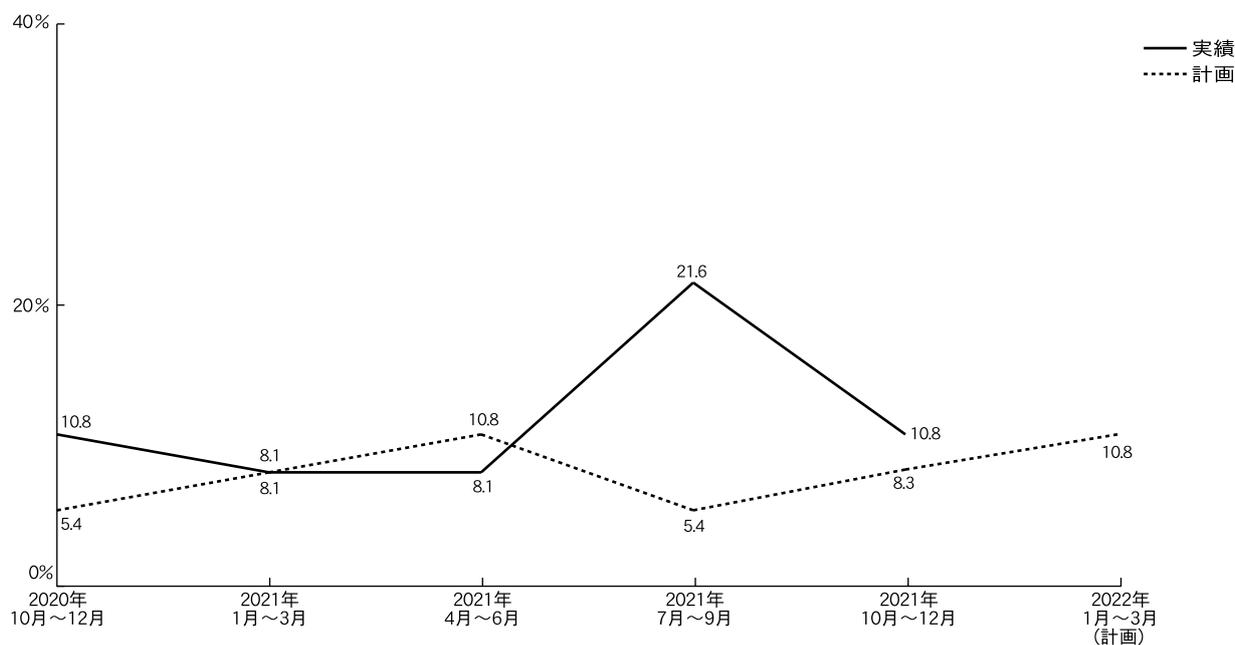


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は10.8%（4社）であった。その設備投資の内容は、「工場建物」「生産設備」が2件ずつ、「土地」「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画についても、10.8%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「付帯施設」「その他」が1件ずつである。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数35社）

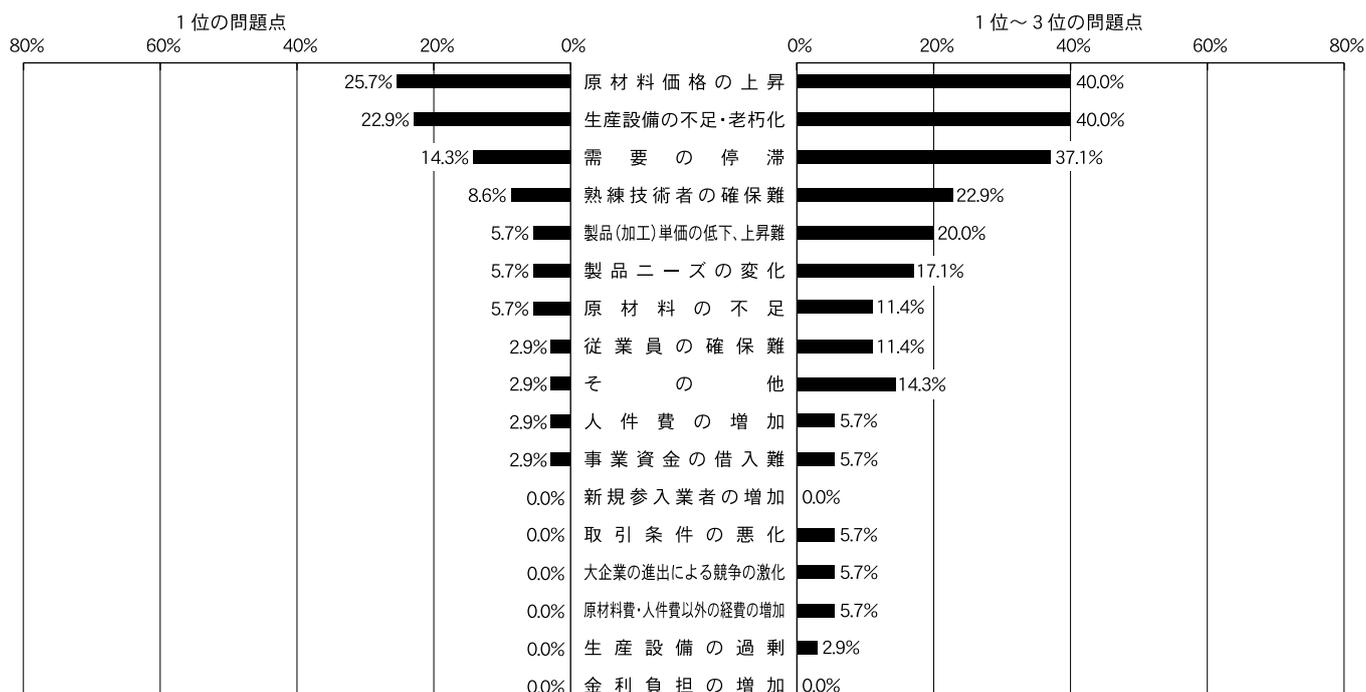
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の25.7%（9社）であり、2番目は「生産設備の不足・老朽化」の22.9%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」「生産設備の不足・老朽化」が同率の40.0%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.2
電気機械器具製造業	4	10.8
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	3	8.1
合計	37	100.0

従業員規模別

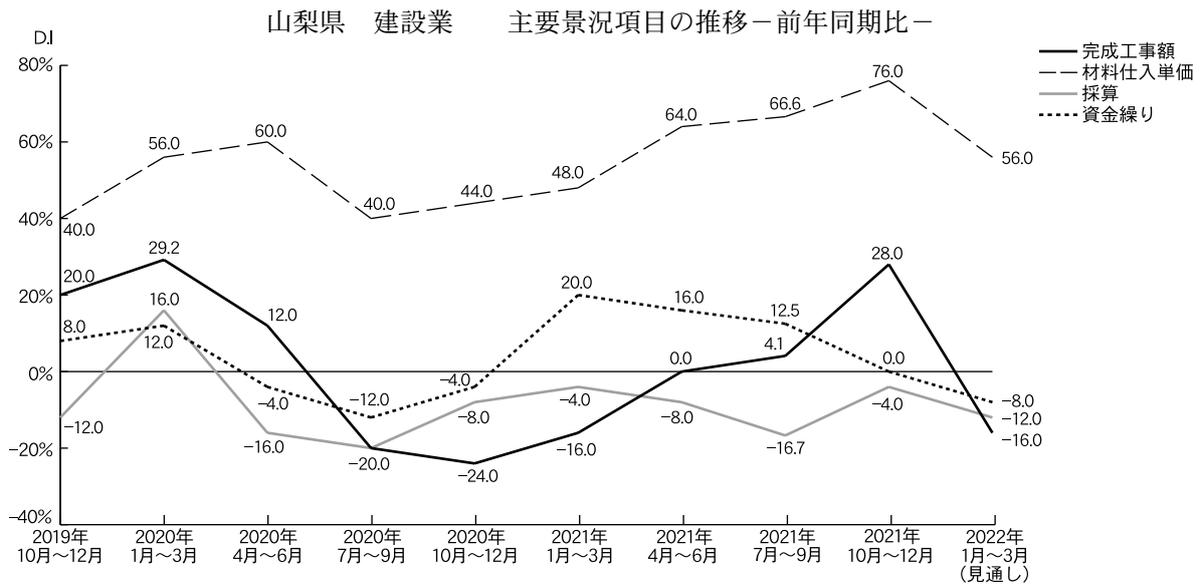
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	17	46.0	15	40.6
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	18.9	10	27.0
11人～20人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期28.0と前期比で23.9ポイント改善したが、来期は▲16.0に大幅悪化（▲44.0）の見通しである。材料仕入単価D Iは、今期76.0と前期比9.4ポイント上昇（悪化）したが、来期は56.0に下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲4.0と前期比12.7ポイント改善したが、来期は▲12.0へと悪化の見通し。資金繰りD Iは、今期0.0と前期比12.5ポイント悪化し、来期は▲8.0へとさらに悪化の見通しである。

今期は、完成工事額D Iと採算D Iが改善、材料仕入単価D Iと資金繰りD Iが悪化。来期は材料仕入単価D Iのみが改善の見通しで、他全てのD Iは悪化の見通しである。



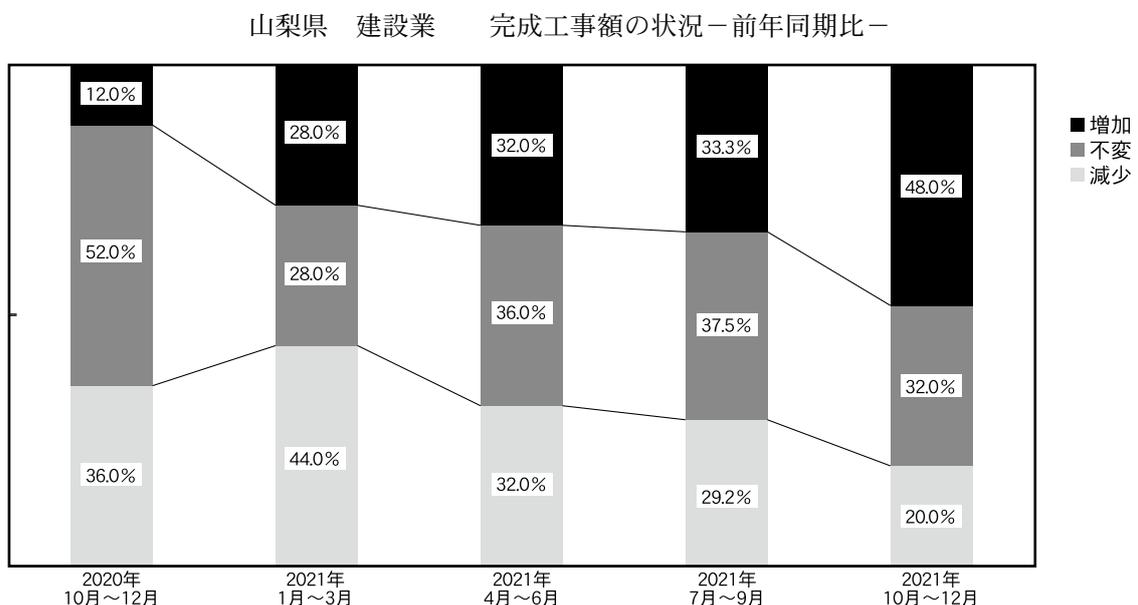
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社（前回24社）））

「増加」と答えた企業の割合は、48.0%（12社）と増加（前期比4社）している。

「不変」は32.0%（8社）と減少（前期比▲1社）、

「減少」は20.0%（5社）と減少（前期比▲2社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社（前回24社））

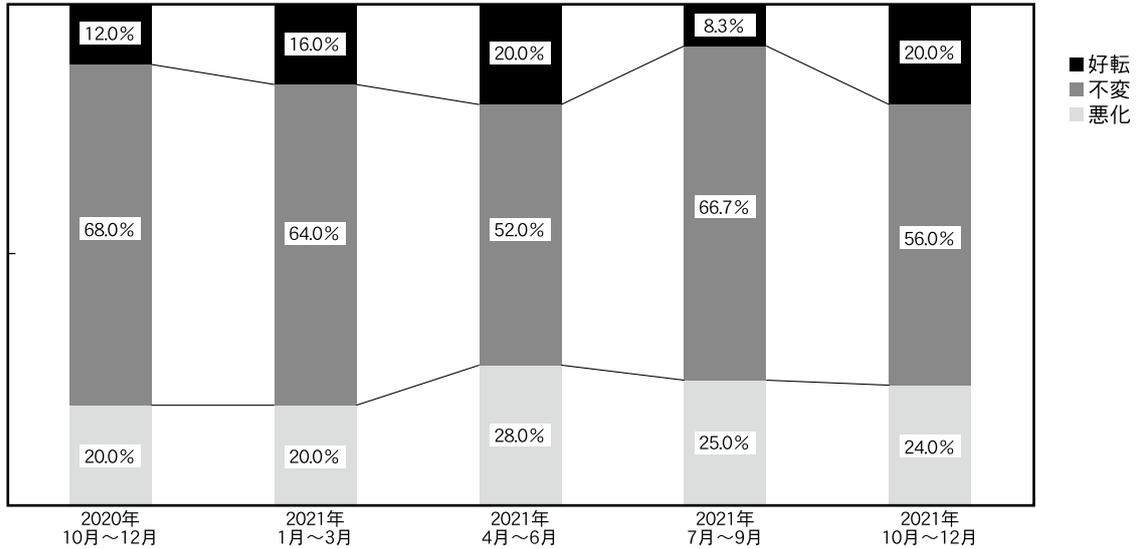
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、20.0%（5社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は56.0%（14社）と減少（前期比▲2社）、

「悪化」は24.0%（6社）と減少（社数は変化なし）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

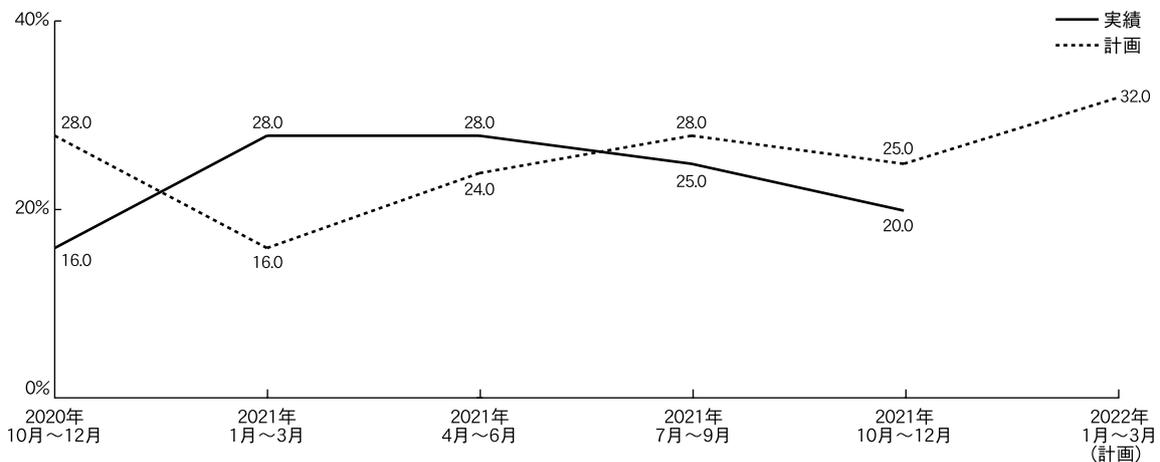


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は20.0%（5社）であった。その設備投資の内容は、「建設機械」「OA機器」が2件ずつ、「土地」「車両・運搬具」「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画については、32.0%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「土地」「建設機械」「車両・運搬具」が3件ずつ、「建物」が2件、「OA機器」が1件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数24社）

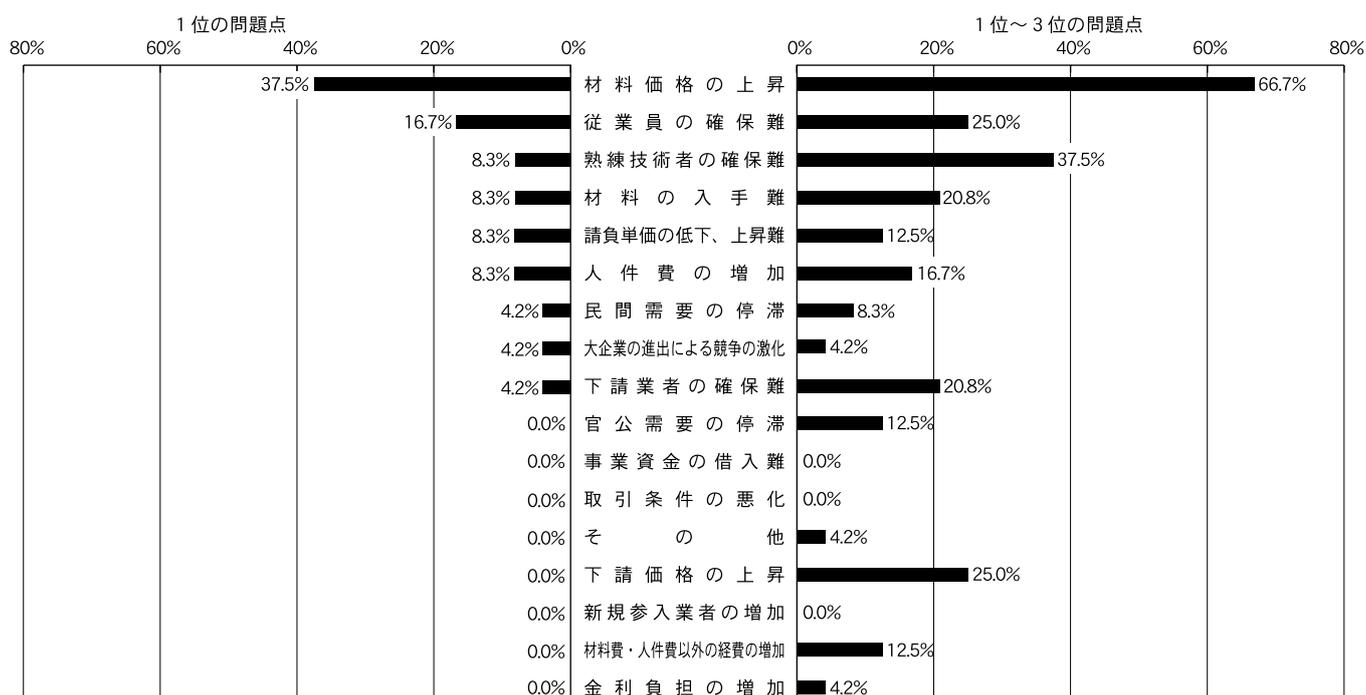
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の37.5%（9社）であり、2番目は「従業員の確保難」の16.7%（4社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「材料価格の上昇」の66.7%（16社）であり、2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の37.5%（9社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

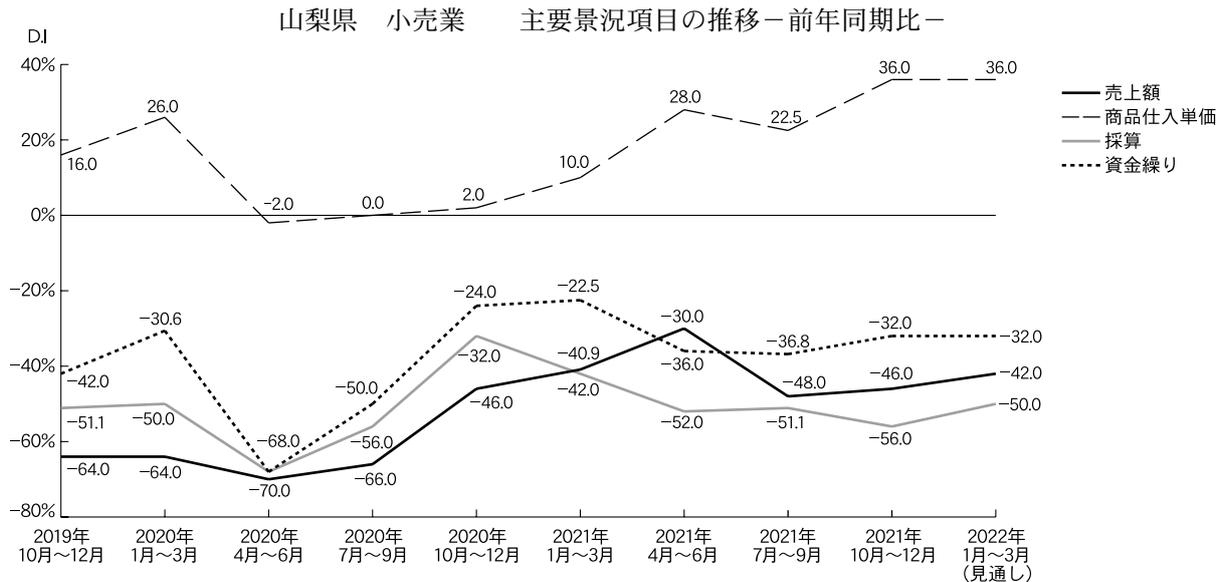
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲46.0と僅かではあるが前期比で2.0ポイント改善し、来期も▲42.0へと若干ながら改善の見通しである。商品仕入単価D Iは、今期36.0と前期比で13.5ポイント上昇（悪化）しており、来期も36.0と今期同様の見通しである。採算D Iは、今期▲56.0と前期比で4.9ポイント悪化し、来期は▲50.0へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲32.0と前期比で4.8ポイント改善し、来期も▲32.0と今期同様の見通しである。

今期は、売上額D Iと資金繰りD Iが改善、商品仕入単価D Iと採算D Iが悪化している。来期は、商品仕入単価D Iと資金繰りD Iが今期同様、売上額D Iと採算D Iは改善の見通しである。



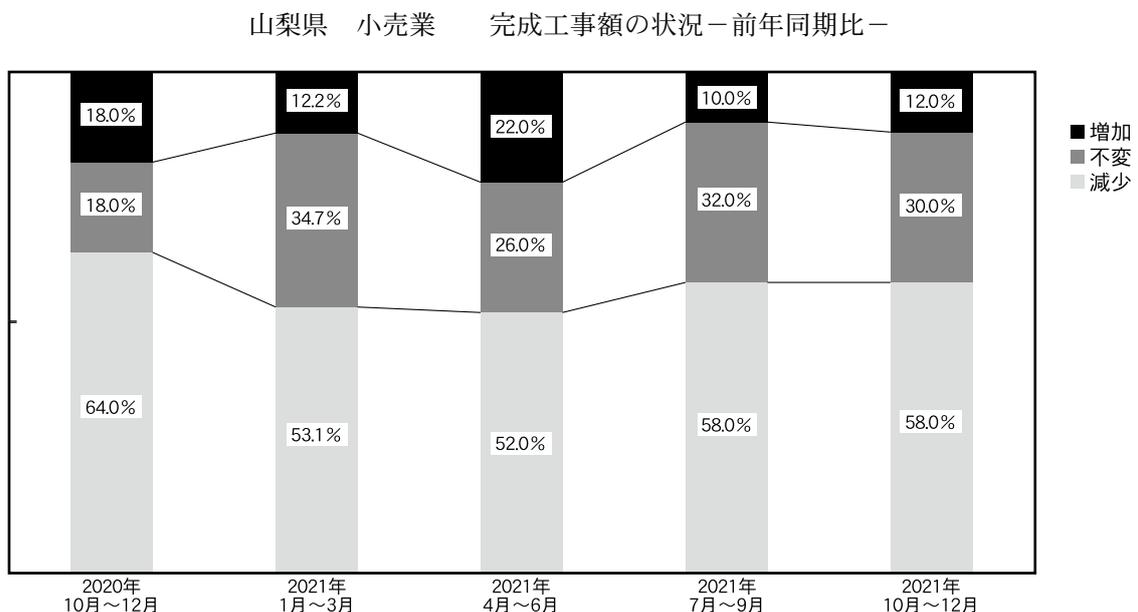
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、12.0%（6社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は30.0%（15社）と減少（前期比▲1社）、

「減少」は58.0%（29社）と前期と変動はない。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社（前回49社））

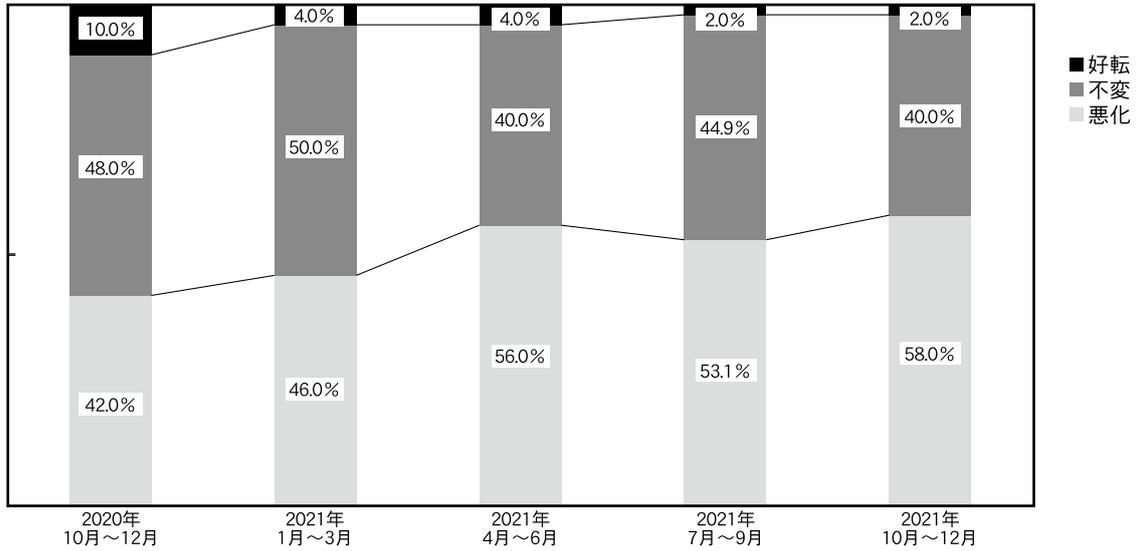
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）で前回より変動なし。

「不変」は40.0%（20社）と減少（前期比▲2社）、

「悪化」は58.0%（29社）と増加（前期比+3社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

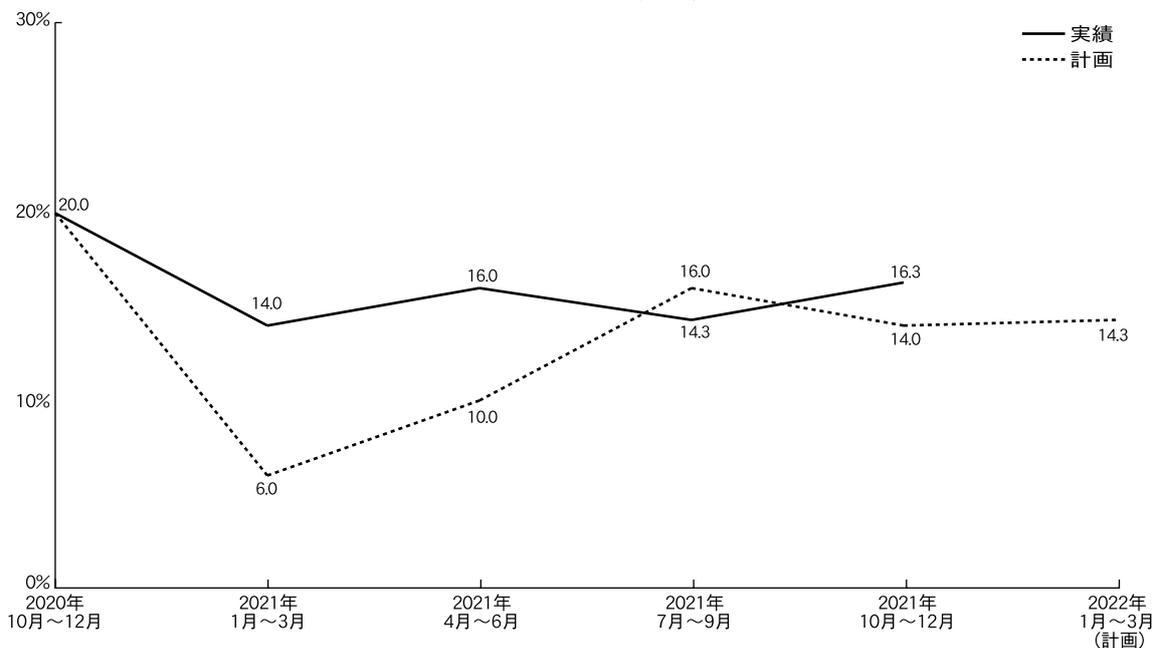


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数49社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は16.3%（8社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」「車両・運搬具」「その他」が3件ずつであった。

来期の計画については、14.3%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「店舗」「販売設備」「その他」が2件ずつ、「土地」「付帯施設」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

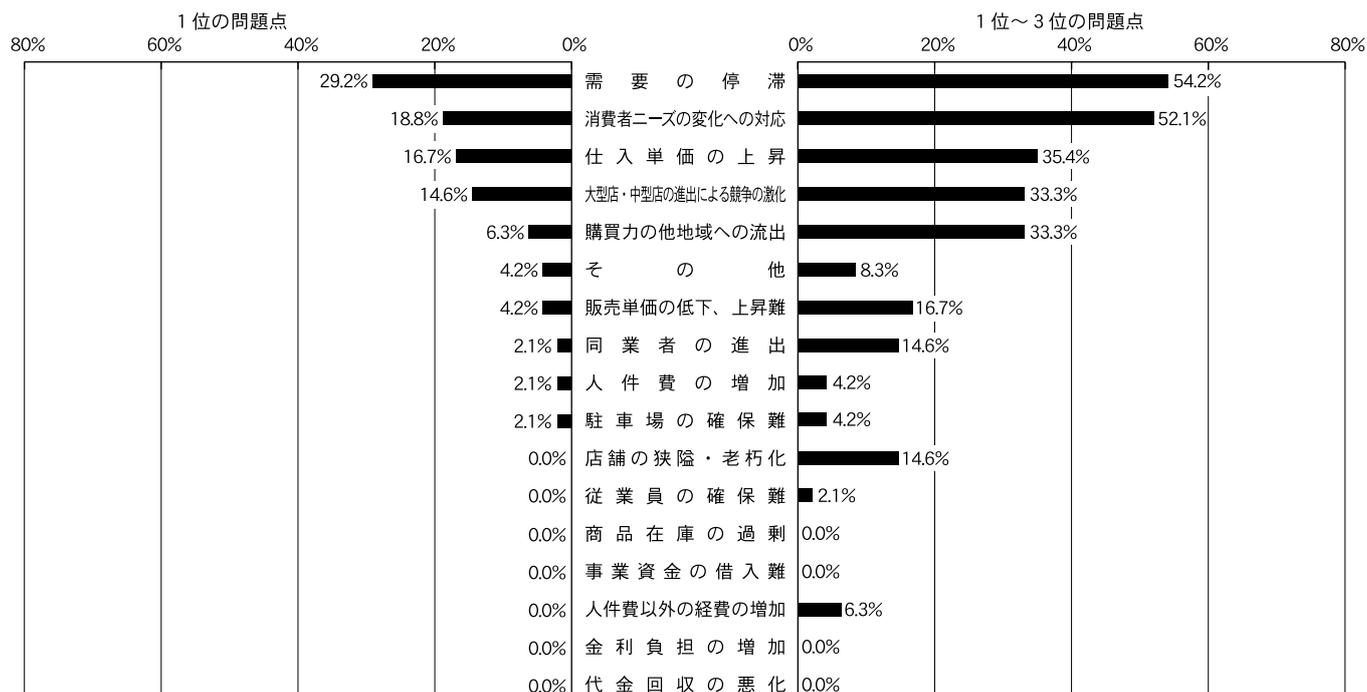
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」の29.2%（14社）であり、2番目は「消費者ニーズの変化」の18.8%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の54.2%（26社）であり、2番目は「消費者ニーズの変化」の52.1%（25社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	9	18.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	17	34.0
合計	50	100.0

従業員規模別

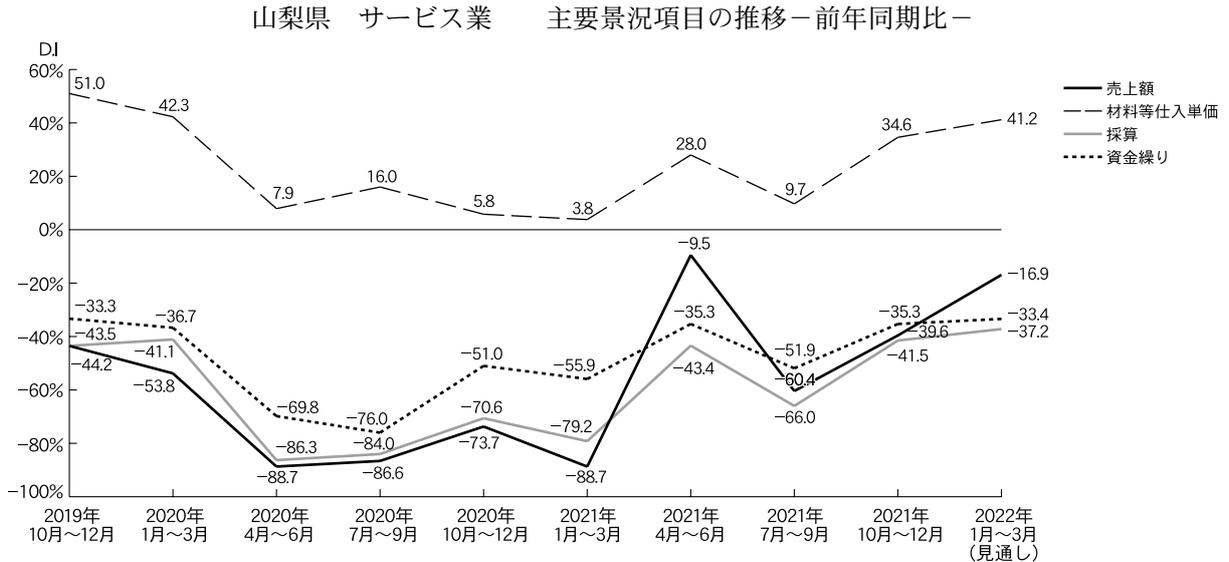
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	39	78.0
3人～5人以下	4	8.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲39.6と前期比で20.8ポイント改善し、来期はさらに▲16.9へと改善する見通しである。材料等仕入単価D Iは、今期34.6と前期比で24.9ポイント上昇（悪化）し、来期も41.2に上昇（悪化）の見通しである。採算D Iは、今期▲41.5と前期比で24.5ポイント改善し、来期も▲37.2と若干改善の見通しである。資金繰りD Iも、今期▲35.3と前期比で16.6ポイント改善し、来期も▲33.4と若干改善の見通しである。

今期は材料等仕入単価D Iを除く全てのD Iが改善した。来期も材料等仕入単価D Iを除く全てのD Iが改善の見通しである。



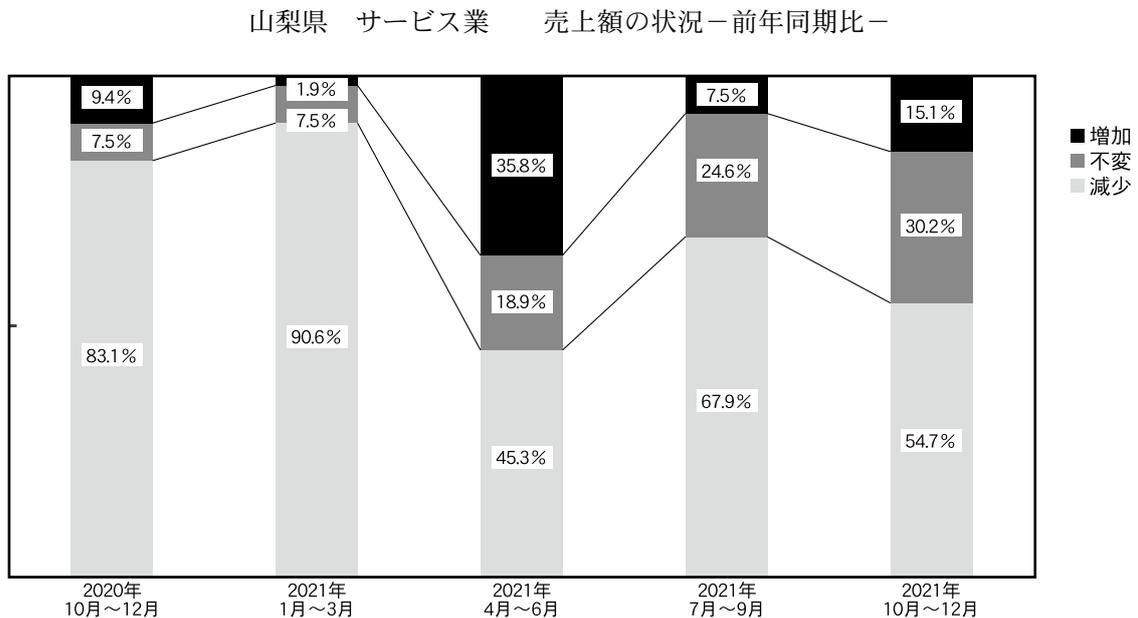
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、15.1%（8社）と増加（前期比+4社）している。

「不変」は30.2%（16社）と増加（前期比+3社）、

「減少」は54.7%（29社）と減少（前期比▲7社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社））

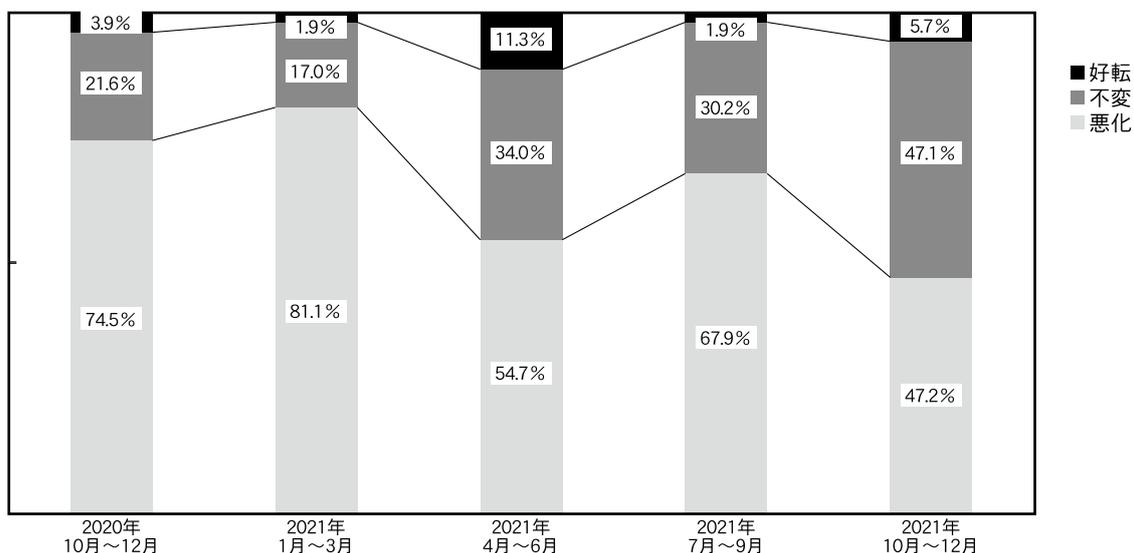
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は47.1%（25社）と増加（前期比+9社）、

「悪化」は47.2%（25社）と減少（前期比▲11社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

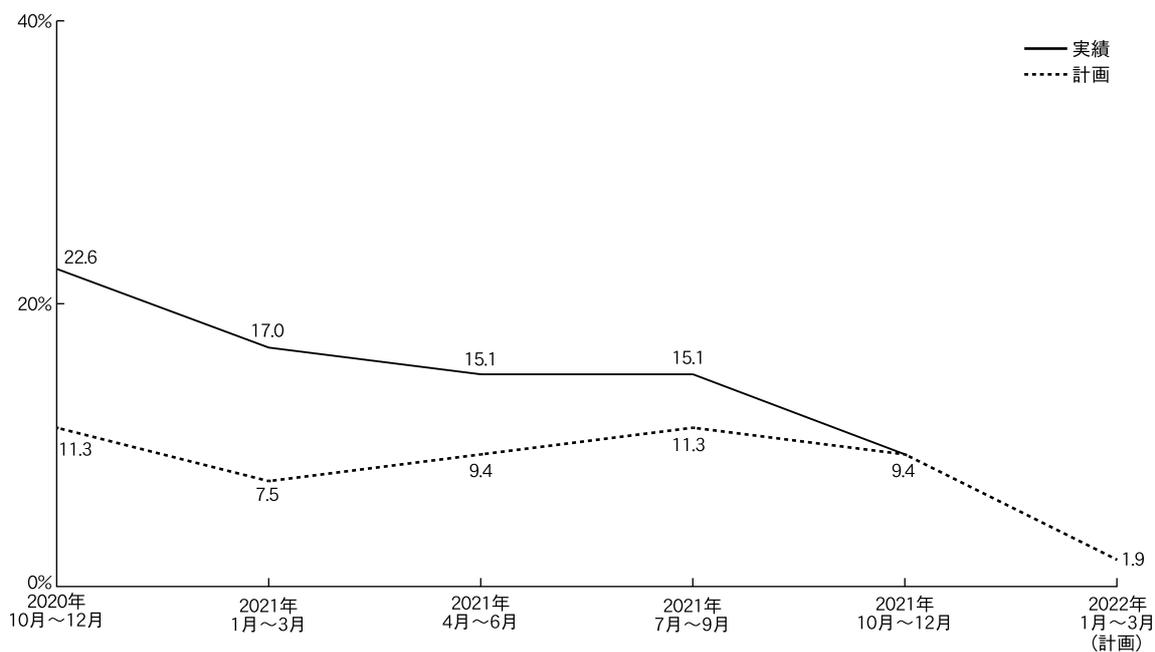


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は9.4%（5社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」が3件、「建物」「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、1.9%（1社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「サービス」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

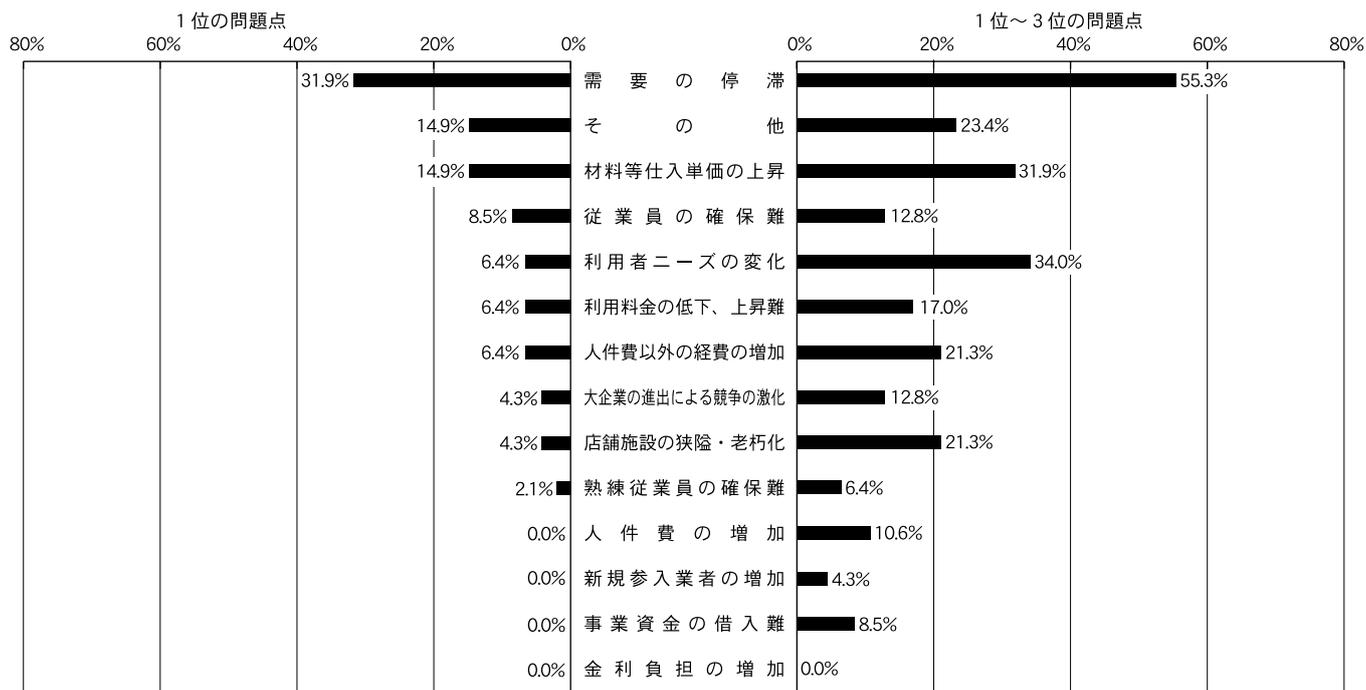
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の31.9%（15社）であり、2番目は「材料等仕入単価の上昇」の14.9%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の55.3%（26社）であり、2番目に多かったのは「利用者ニーズの変化」の34.0%（16社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	20	37.7
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	18	34.0
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	40	75.5
3人～5人以下	7	13.2	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0